

# 京のひなまつりと幼稚園

大岡和子



おひなまつりときいただけで、「ああ、春になったのだなあ」と、何だか明かるい、うれしい気持ちになります。京の町々にも、一月になると豪華なひな人形が店頭に並びはじめ、二月には、可愛いかたちのひな菓子も彩りも美しく売り出されます。やはり女の子にとっては、昔も今もかかすことのできない楽しい年中行事の一つなのだという感じがいたします。

それにつけても、私が初めて幼稚園の先生になった頃（戦前）のひなまつりのことが印象に残っています。その園には古い立派なおひなさま一揃がありました。それは主任の先生（六十歳近かったと思う）が小さい頃、飾った愛用のもので園へ寄附されたものでした。

毎年三月が近づいてくると、若い何も知らない私に、

いろいろと説明しながら一日がかりでいいねいに並べます。その人形一つ一つに昔の想い出があるらしく、その話をききながら飾るのも楽しいものでした。しかしその翌日から大変です。子どもたちがあばれてひっくりかえしたり、さわってこわしては申しわけがないと思い、私の気のせいようは、子どもを保育することよりも、その人形を守る方にいっしょうけんめいでした。（破損すると私の責任のように感じて）そのおばあさん先生は、「人形の前ではさわいではいけませんよ。手をひざの上置いて、このお姫さまのように、お行儀よくね」と、やさしく話されます。

その時代の子どもたちは何の抵抗もなく、よくその通りきいたように思います。「明日は、あなたがひな人形

の説明をしない」といわれ、私は夜おそくまで種々の本を読んだり、母にたずねたりしてよくおぼえ、当日、子どもたちをひな段の前へ坐らせ、説明していききました。終わってから、

「今日のお話はじょうずでした。言葉使いもよく、子どもたちにも理解できたでしょう。しかし一つだけいけなかった点がある。あなたは始めから終りまで立ったまま片手で人形を指しながら話していましたが、ひな人形は尊い皇室の表現でご即位の姿を現わしたものですから、もっと敬虔な態度が必要です」といわれ、ハッと致しました。私はただ子どもたちを前にして、昨夜おぼえた説明を忘れないようにしようけんめいで、そんなことを考えもしませんし、気もつきませんでした。

そのように礼儀正しかった先生の種々の指導が想い出されます。またその園は京都の中心地に近く、昔からの商売を継いでいる家が多く、部屋半分ほど立派なひな人形を飾った家（その家にはひいばあさん、おばあさん、お母さんと三代が揃っている）へ子どものお友だちと幼稚園の先生が招かれました。たくさんのおひなさまのごちそうとともに本当の甘酒（現在の店で飲む甘酒でな

く、もっと濃く、きつい味）を味わったのもその時がはじめてでした。

その家の女の子は、とてもやんちゃで、行儀悪く幼稚園では「オテンバサン」と呼ばれていて、こんな落着いた古めかしい家に育った子どもとは思えない行動が幼稚園での姿でした。しかし今日は美しい着物を着せてもらい、長い間おとなしく坐っています。全く園でのようすと異うので、同じ子どもがこんなにも違う態度ができるものか？ と、私は不思議で不思議で何と子どもというものは解らないものだ、と驚くとともに深い興味をおぼえました。

またその頃の製作（手技といっていた）は、色紙に桃の花の霧ふきなどを先生がしておき、リボンを通しかべかけ用で、その上に子どもたちが一斉に色紙で作ったひな人形を貼って、おみやげに持って帰らせました。見た目にはみんな揃って美しいものでしたが、お祝いの方もこの時季が一年のしめくくり期に近く、クリスマスに次ぐ最大の行事として派手に外見的に取り上げていたようです。

劇遊びでも三人官女の赤い袴と白い上衣とが園に揃え

てあり、それを着て台の上に立つのが、子どもたちの憧れでした。その日は美しい着物をきて登園する子どももたくさんいました。

次々とのおひなまつり時代のおひなまつりのことを思い出しながらも、月日は流れ、戦後も二十数年が経過いたしました。そして現在はどんな状態だろうかと思ひ、学生たちが日頃お世話になっている実習園で調べてみました。(二十三園)

1 あなたの幼稚園にひな人形がありますか。

全園ありました。

2 古い本式か、新しいケース入りか。

古い本式のもの。(二十二園)

新しいもの。(一園、これは新設園です)

3 飾りますか。

全園が飾る。

4 お祝いの方について。

イ 子どもだけを中心として簡単に(十二園)

ロ 卒園を前に生活発表会や誕生会を兼ねて保護者を

招き盛大に。(十一園)

5 いつまでも残りたいですか。

全園が残りたい希望でした。

理由として、

イ 日本の伝統的行事だから尊重したい。

ロ 時代の流れの激しい中で情緒ある奥ゆかしいものとして残したい、など。

さすが焼けなかった京都の町らしく古いひな人形があり、飾り、年中行事として、取り上げています。しかしその取り上げ方は昔と内容が異なっています。

特に、製作面でも平面的な一斉のものばかりでなく、材料も豊富に空ビン、空箱、粘土、布ぎれ、発泡スチロール、色画紙、新聞紙、石、毛糸、木片、など種々の材料で立体的なものも多く、方々の園へおうかがいして、子どもの作品を見ていると、それを作った子どもの顔が想像されて自然とほえみたくなるような特色のあるもので、一人ひとりの個性と創造性が現われていてとてもおもしろく感じます。

昔はこんな作品が生まれなかったと思ひ、すべて自分の考えで材料を選び、自分で表現し、自分で製作していくこの過程を大切にあげたいと思うとともに、のびのびとした滑稽な顔の作品を見ていると、外見的に立派

に上手でなくても子どもの内面的な表現がとてもうれしく思います。劇遊びでも先生が準備したもののの中に子どもを当てはめていくのではなく、子どもの発想のもとにいつしよに考えていく方向に進んでいます。

一方音楽の方面はどんな歌が用いられているか調べてみました。

(1) 灯あかりをつけましょ ボンボりに

お花をあげましょ 桃の花

五人ばやしの笛たいこ きようは楽しいひなまつり

★

(2) 暗い小さい箱の中 一年中をおとなしく

春を待ち待ちねんねして

淋しいでしよおひなさま

★

(3) 上の段には内裏さま 五人ばやしは中の段

私の好きな人形も いっしよに飾ってひなまつり

以上が代表的なもので(1)の「灯あかりをつけましょ」は全園でうたわれていました。昔もこの三つはうたってきたし

た。私のきいたことのないような新しい歌はありませんでした。ほとんどなじみ深いものばかりで、やはり伝統

的な昔の歌が現在も残り親しまれ歌いつづけられているようです。

歌はあまり変化がありませんでしたが、リズムバンドなどはとても進歩してきました。戦時中は台所オーケストラといって鍋ぶたのコスリ合わせ、マナ板を杓子でたたき、火ばし、釜、コップに水を多量や少量入れて並べ、箸でたたいたり、こすったりする（高低音が出る）水ぶえなど、とても複雑な音が出ました。（一度試みられたら如何でしょうか）こんな愉快なおひなさま合奏を思い出しつつ、今も一見して昔ながらの同じひなまつりでも、その取り上げ方や表現はたいへんに変化してきています。

今年はゲバ棒を持ったおひなさまでも並ぶのではないかと思います、あわただしい落着きのないこの時代において、ほのぼのとするあのムードを持ったひなまつりをぜひ子どもたちに味わせたく、また狭い団地住いでおひなさまを飾る場所のない子どもたちにも経験させるためにも幼稚園で飾り、うたい、ともに祝い、礼儀正しい動作の中にも、女らしさを味わうことも決して形式だけの無駄ではなく、大切なことだとつくづく思っているこの頃です。

（平安短期大学）